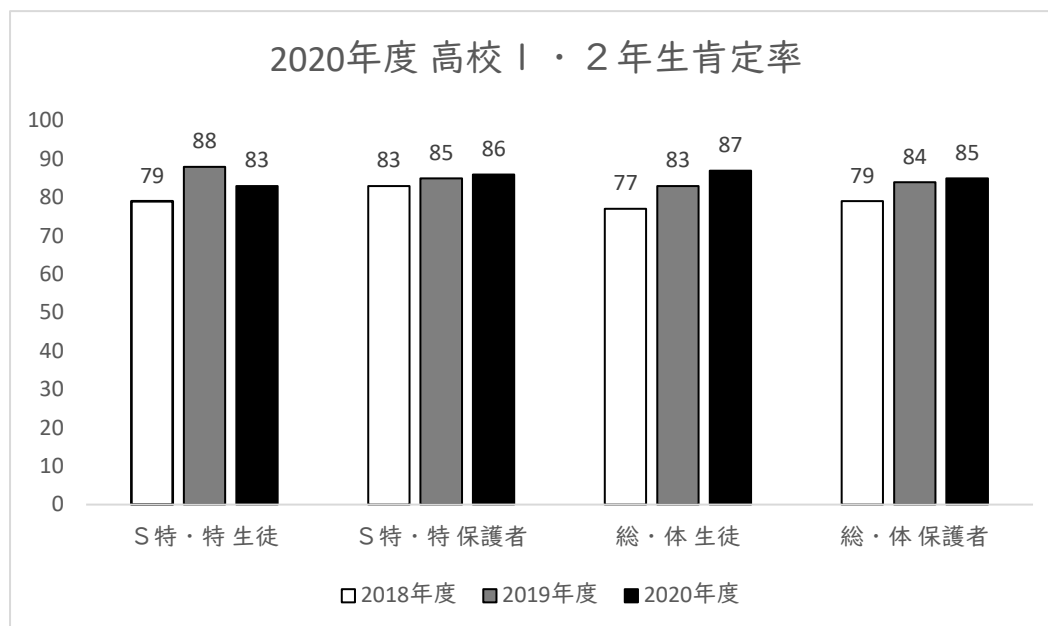


2020年度 学校評価アンケート 高校1・2年生 集計結果		2021年3月20日					
質問項目	・そう思う(4)                      ・ややそう思う(3) ・あまりそう思わない(2)        ・そう思わない(1)  肯定率:(4)・(3)の和/(4)~(1)の和 平均値:各項目(4)~(1)の平均	肯定率					
		生徒		保護者		教員	
		S 特 ・ 特 進	総 進 ・ 体 育	S 特 ・ 特 進	総 進 ・ 体 育	S 特 ・ 特 進	総 進 ・ 体 育
1	本校に入学してよかったと思っていますか。	84%	92%	93%	96%	94%	92%
2	本校生であることに自信と誇りを持っていますか。	66%	82%	70%	82%	78%	88%
3	自分の目標や目的意識を持って学校生活を送っていますか。	82%	86%	80%	76%	100%	100%
4	挨拶・服装・時間等、ルールやマナーを守れていると思いますか。	93%	97%	96%	94%	100%	96%
5	授業内容をほぼ理解できていると思いますか。	67%	69%	73%	73%	67%	64%
6	課題(宿題)等の難易度は適当だと思いますか。	84%	86%	84%	84%	83%	80%
7	生徒の能力・個性に応じた適切な指導が行われていると思いますか。	79%	83%	87%	83%	100%	100%
8	本校の部活動に満足していますか。	78%	80%	66%	80%	94%	84%
9	学校生活の中で達成感を得たり仲間意識などが高まったりしていると思いますか。	80%	87%	80%	84%	89%	88%
10	進路実現に向けた各種説明会やキャリア・フロンティアの取り組み内容は充実していると思いますか。	93%	90%	84%	77%	83%	96%
11	生徒一人ひとりの人権に配慮した適切な指導が行われていると思いますか。	80%	87%	91%	88%	94%	84%
12	生徒面接やスクールカウンセリング等、心身の健康を維持する(保つ)ための支援が適切に行われていると思いますか。	85%	87%	92%	85%	50%	64%
13	本校の教育環境(施設・設備面等)は、充実していると思いますか。	95%	95%	99%	96%	89%	72%
14	学校生活の中で、仲間との良好な人間関係が築けていると思いますか。	93%	95%	94%	93%	89%	52%
15	学校の教育方針等について、教職員の共通理解・意思統一がされていますか。	76%	86%	91%	89%	50%	52%
16	自分の進路を実現するための体制(教育課程・習熟度別授業・補習等)が整っていると思いますか。	98%	93%	96%	88%	61%	48%
17	本校の学力向上に向けた様々な取り組みが、生徒の進路実現につながっていると思いますか。	95%	90%	92%	86%	67%	52%
18	本校の学校行事は、適切な内容で充実していますか。	71%	81%	79%	80%	78%	52%
19	生徒と教員との信頼関係に基づいた指導が行われていると思いますか。	84%	87%	91%	86%	72%	48%
20	クラスや学校での様子などを、家庭で保護者に知らせていますか。	78%	82%	79%	79%	89%	92%
21	学校や学習塾への訪問・各種説明会・オープンスクール等、本校の広報活動は計画的かつ効果的に行われていると思いますか。	81%	88%	85%	84%	100%	100%
<b>肯定率・平均値の平均</b>		<b>83%</b>	<b>87%</b>	<b>86%</b>	<b>85%</b>	<b>82%</b>	<b>76%</b>

## 2020年度高校1・2年生（S特・特進コース、総進・体育コース）総括

### 1. 生徒・保護者の過去3年間（2018年～2020年）の全質問21項目の肯定率（それぞれの質問に対してそう思う、ややそう思うと回答した割合）の平均（％）の推移（数字は左から2018年、19年、20年のデータ）



\*この調査においては、肯定率80%以上は高い評価であると判断する。

\*2019年度は、前年に比べて、すべてのコースの生徒・保護者の肯定率が上昇した。

\*2020年度は、前年に比べて、S特・特進生徒の肯定率のみが5%低下したが、その他はすべて上昇した。

### 2. 高校1・2年生の質問項目1、5、7、8、17、21の過去3年間（2018年～2020年）の肯定率（％）の推移（数字は左から2018年、19年、20年のデータ 数字の下線部は80%未満の項目）

(1)「本校に入学して良かった」	S特・特進：85・90・84	総進・体育： <u>77</u> ・84・92
(5)「授業内容の理解」	S特・特進： <u>67</u> ・88・ <u>67</u>	総進・体育： <u>61</u> ・ <u>74</u> ・ <u>69</u>
(7)「能力・個性に応じた適切な指導」	S特・特進： <u>78</u> ・83・ <u>79</u>	総進・体育： <u>68</u> ・ <u>76</u> ・83
(8)「クラブ活動の満足度」	S特・特進： <u>66</u> ・81・ <u>78</u>	総進・体育： <u>78</u> ・82・80
(17)「進路実現等に向けた学力向上」	S特・特進：84・91・95	総進・体育：81・84・90
(18)「学校行事の充実」	S特・特進： <u>63</u> ・82・ <u>71</u>	総進・体育： <u>67</u> ・ <u>76</u> ・81

\*質問項目（5）「授業内容の理解」の肯定率が、S特・特進生徒を中心に大きく低下した。

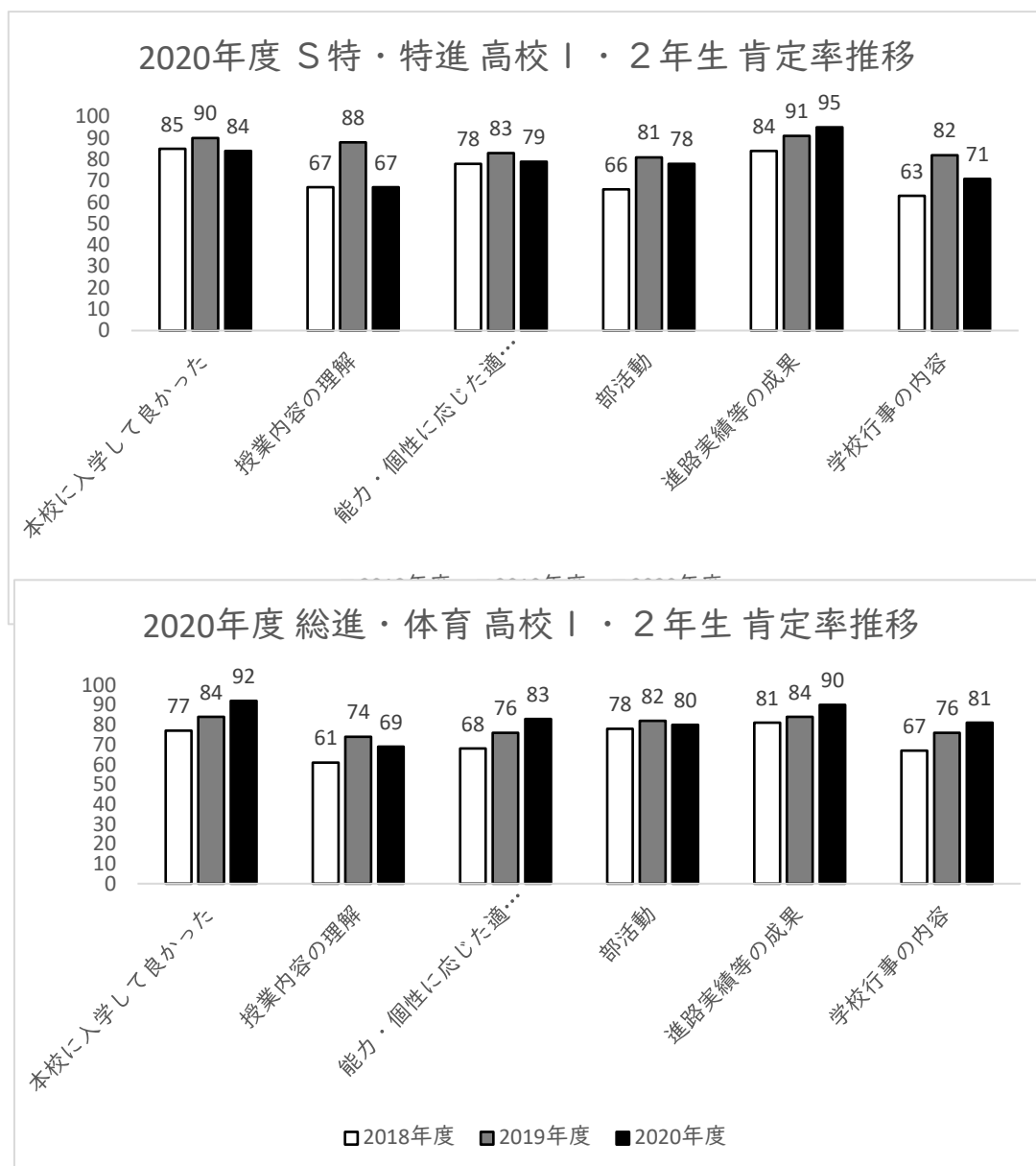
コロナ禍の臨時休校によってリモート授業や動画の配信を行ったが、生徒一人ひとりにノートPCがなかったため、その効果は十分でなかったと思われる。

\*質問項目（8）「クラブ活動の満足度」の肯定率については、コロナ禍で活動が制限されていたにもかかわらず、小幅な低下に止まっている。これは各クラブの顧問が、感染防止に努めながら、適切な指導をおこなったことの現れであると考えられる。

\*質問項目（17）「進路実現等の結果」がS特・特進生徒、総進・体育生徒とも4～6%増加した。

（5）と比較して肯定率が高いのは、高校3年生の総進理系クラスで推薦入試プロジェクトにより国公立大合格が増えたことや、英検対応ができたことにより、私大入試で好結果をおさめることができたためだと思われる。

\*質問項目(18)「学校行事の充実」は、大学訪問や課題研究等が中止やリモートでの実施となった影響か、S特・特進は低下している。いっぽう総進・体育は、コロナ禍で密を避けるために学年別に行った体育祭や、「みらいラボ」等の充実に向けた結果、上昇している。



### 3. 肯定率が70%以下だった質問項目(高校1・2年生徒・保護者別 今年度←昨年度)

S特・特進生徒は2項目(項目2・5)、総進・体育生徒は1項目(項目5)。

S特・特進保護者は1項目(項目8)、総進・体育保護者0項目。

(2)「本校生であることへの自信と誇り」 S特・特進生徒 66% ← 69%

(5)「授業内容の理解」 S特・特進生徒 67% 新規

総進・体育生徒 69% 新規

\*質問項目(2)「本校生であることへの自信と誇り」の肯定率はわずかに上昇しているが、さらに肯定率を高め、S特・特進の生徒に自己有用感を持たせることができるよう自主性を涵養する活動を工夫するとともに、地域との交流活動やボランティアなどにも積極的に取り組ませる必要がある。

\*質問項目(5)「授業内容の理解」の肯定率が70%を割っていることをふまえ、教員の授業改善を目的に授業評価を複数回実施することや、研究授業を計画的に行い、教員の資質向上を図る必要がある。

#### 4. 教員による自己評価で肯定率が70%以下だった質問項目

(5)「授業内容の理解」	S特・特進：67%	総進・体育：64%
(11)「心身の健康を維持するための支援」	S特・特進：50%	総進・体育：64%
(15)「教職員の共通理解・意思統一」	S特・特進：50%	総進・体育：52%
(16)「進路を実現するための体制の充実」	S特・特進：61%	総進・体育：48%
(17)「進路実現等に向けた学力向上」	S特・特進：61%	総進・体育：48%
(18)「学校行事の内容の充実」		総進・体育：52%
(19)「生徒・教員の信頼関係に基づいた指導」		総進・体育：48%

\*教員の自己評価では70%以下の上記7項目について、生徒・保護者の評価は(5)を除いて70%を越えており、80%以上の項目も少なくない。教員の自己評価を教育内容のさらなる充実につなげていくために、いくつかの改善点を以下にあげておく。

\*質問項目(5)(17)「授業内容の理解」や「進路実現等に向けた学力向上」の肯定率が70%を割っていることをふまえ、授業の中で生徒の理解をうながす指導ができていないのかを、授業評価アンケートをもとに一人ひとりの教員が再度点検する必要がある。

\*質問項目(11)「心身の健康を維持するための支援」の肯定率が低いのは、コロナ禍の影響もあるだろうが、生徒一人ひとりに教員が十分に向かい合っていないことの表れである。支援の必要な生徒には、スクールカウンセラーとしっかり連携しながら、生徒に寄り添った指導をすすめるなければならない。

\*質問項目(15)「教員の共通理解・意思統一」ができていないと感じる教員が3割以上もいる。コースや学年研修の場で、学習指導・生徒指導等の方針のいっそうの共有を図る必要がある。

\*質問項目(19)「生徒・教員の信頼関係に基づいた指導」の肯定率が低いのは、生徒理解ができていないという教員の意識の表れである。面談等の回数を増やすことはもちろん、生徒の細かな変化にも気を配り、きめこまやかな指導を重ねていきたい。

#### 5. 総括コメント

コロナ禍による緊急事態宣言発令時には、Web朝礼・オンライン授業や課題配信を行った。今年度、中学・高校の全クラスに電子黒板機能付きプロジェクター(ワイド)を設置し、これを機にICT教育推進プロジェクトチームを立ち上げ、ICT機器の活用法の研究を進めた。次年度からの新入生にはChromebookを持たせることにしている。今後、ICT教育をさらに推進し、授業の深化を図っていきたい。

今年度も5教科の専任教員69名の全授業について、「授業評価アンケート」を実施し、全生徒が回答した。その結果に対して、12月中旬に実施した「授業評価アンケートに対する教員の意識と実態についての調査」に全教員が回答した。ほとんどの教員が、「今回の授業評価アンケートの結果は、自らの授業改善に役立つと思う」と前向きに捉えており、「授業評価アンケート」を実施した一定の成果は得られたと考えている。今後は、アンケート結果が授業の改善に生かされているかを検証するためにも、授業評価を複数回実施することや研究授業における教員の相互評価を実施する必要がある。

大学進学については、岡山大をはじめとした国公立大学・準大学に、過去最高となる47名が合格した。また私立大学については、東洋大学に34名、関関同立に27名、産近甲龍に131名と、難関大学にも多くの合格者を出すことができた。さらに専門学校への進学や就職を希望する生徒を含め、総進・体育コース生徒は、各自の希望に応じて多様な進路実現を果たしており、こうした結果が「1・2年の進路実績等の成果」の項目の肯定率の上昇につながったと考えられる。

本校の生徒・保護者の進路実現に向けた意識は年ごとに高くなってきており、学力向上と進路実現に向けた

取り組みについても、目に見える成果が求められている。その一方で、文部科学省による大学入学定員の厳格化により、これまで多くの本校生が進学してきた中堅私立大学が非常に難しくなっていたが、今年度については、コロナの影響もあり推薦入試で多くの合格者を出すなど、近畿大・神戸学院大等の私立大学を中心にやや広い門となった。

クラブ活動では、剣道部男子団体・女子団体が全国大会に出場し、柔道部女子・バドミントン部男子・卓球部男子がそれぞれ近畿大会に出場した。ダンス部は新人西日本大会に出場した。これらの成果も「クラブ活動の満足度」の項目の肯定率の上昇につながっている。

2021年4月には、59期生として前期308+一貫53+後期5名の計366名が入学予定である。今年度の「授業評価アンケート」と「学校評価アンケート」の結果を全教職員が謙虚に受け止め、2021年度には職員研修の充実を図るため、Web活用も含めて各種講演を行い、授業評価アンケートを複数回実施してPDCAサイクルを確立させていくことで、東洋大学附属姫路高等学校の更なる進化と飛躍をめざしていきたい。

## 6. 高校1・2年生の課題解決に向けて

- (1) 各コースの目標設定とそれを実現するための学年内の意思の疎通と協力体制・相互理解の強化。
- (2) 第3学年が培った推薦プロジェクトや就職等のノウハウの継承と情報の共有による各教員のスキルアップ。
- (3) 総合進学コースの探究活動（キャリア・フロンティア）への取り組みの強化。
- (4) 定期考査問題の適正化。
- (5) 不登校生徒へのカウンセリングとWeb授業等の検討。

## 7. 2021年度の課題

- (1) 2022年度からの新教育課程を見据え、類型（コース）の編成、過当たりの授業時間数等を決定する。
- (2) 本校の教育方針に基づき、各学年・コースの教育方針と年度目標・数値目標を明確にする。
- (3) 高校の定員確保をめざす。
- (4) ICT教育を推進（含 ワイードの有効活用）して授業の改善・充実を図り、高1のChromebookの効果的利用法を研究する。